

『国語表現Ⅰ』改訂版

発行者番号	教科書の記号・番号
15 三省堂	国Ⅰ 008

B5判、120ページ

< 1. 編集方針 >

- 伝え合い、わかり合うための表現活動を中心に、学習者の自己確立に向けた、主体的な生きる力の育成をめざしています。
- 時間減の中で、教材を選択することができ、具体的な学習目標の設定と、その達成とが現実のものとなるような学習活動を提案しています。

< 2. 構成、教材の配置 >

- 学習活動はすべて実践に基づいて構成されており、学習者が主体的、能動的に取り組めるようになっています。
- 一つ一つの学習活動は、学習者が自らのことばを育み、他者との交流を実現させていく過程を丁寧にたどる構成になっています。
- 教科書の順序にかかわらず、どの学習活動から取り組んでも学習効果が上がるように工夫しています。また、指導字数を配慮した適切な分量になっています。

< 3. 教材選定・作成の観点 >

- 学習活動の冒頭に、チャート化した「活動の見通し」を示し、学習者自身が学習活動全体の展開を理解し、自身が学習のどの場面にあるかを確かめながら学習できるようにしています。
- 具体的で必然性のある場面設定により、学習者一人一人の「ことばの芽」を育て、学習者自身の考えていること・伝えたいことを引き出し、それらを発信する意識を育むことができるように配慮しています。
- コミュニケーションの中での自己表現によって、学習者の「自己変容」と「言語活動の活性化」を促しています。

< 4. 言語事項、教材化、学習上の配慮 など >

- 言語にかかわる問題を積極的に取りあげたコラムを設け、表現活動にしっかりとした基盤と厚みを与えるようにしています。
- 学習者が、表現活動の具体的なイメージを持てるような図版やイラストを示しています。また、視覚的にも読みやすく、使いやすい教科書となるよう、紙面デザインや色づかいにも工夫をしています。
- 全体を通して、「ことば」の価値を再発見し、「ことば」によって自己理解と他者理解を実現し、その交流を通して「生きる力」の土台を作ることを意図し、具体例その他が、学習者に届くことばで表現されるよう、配慮しています。